2018年6月16日

第12回 野上紘子記念アート・ドキュメンテーション学会賞・推進賞選考委員会
委員長　鷲見洋一

第12回野上紘子記念アート・ドキュメンテーション学会賞・同推進賞受賞者

標記の賞につき、会員の皆さまによりご推薦いただいた候補のなかから選考の結果、2018年度は学会賞1件の下記授賞を決定いたしました。今後とも本賞の発展にご協力くださいますよう、お願いいたします。

◆第12回野上紘子記念アート・ドキュメンテーション学会賞

［賞の概要］
『アート・ドキュメンテーション研究』、『アート・ドキュメンテーション通信』、その他の雑誌に掲載の論文・記事、図書、データベース、展覧会、ウェブサイトのなかから優れたものを選出。会員に限らない。対象となる論文・記事、図書、展覧会は、受賞年の前年度を含む過去3年間に発表されたものとする。

受賞	**京都大学古地震研究会** **共同翻刻アプリケーション「みんなで翻刻【地震史料】」のオンライン展開における成果に対して**
授賞理由	「みんなで翻刻」は、「翻刻」という人文学の基本的な手続きをインターネット上での共同作業として実現することを意図したプラットフォームで、2016年12月にネット上で公開され、運用中である。そもそもこの枠組みは、過去の地震を歴史資料に基づいて研究する「京都古地震研究会」の実践の中から発想されてきたもので、現在運用中のサイトにおいても対象は東京大学地震研究所が所蔵する歴史地震に関する古典籍となっており、「みんなで翻刻【地震史料】」と題するゆえんである。 文書や記録などの原史料を構造化されたテキストデータに変換する翻刻という作業は、従来個別分野の専門家が行うものと考えられてきたが、「みんなで翻刻」はネットを活用して自学と実践を並行して実現できる環境を構築している。構造化テキストを入力・表示するインターフェイスも優れており、進捗状況の確認やランキングといった参加した個人の意欲を喚起するゲーミフィケーション的な道具立ても効果をあげている。また、添削依頼ができるなど習熟度に応じた参加の形態を選べる配慮は、できあがってくるテキストの質を改善する役割も果たしており、ネット上の「集合知」へのありがちな懐疑に対する一つの回答となっている。 本プロジェクトの枠組みは対象を選ぶことによって、幅広い応用が期待されるとともに、これまでの人文学の学問的手続きに対する一つの批判のあり方として受けとめることができよう。ドキュメンテーション自体の学術的研究に対する示唆に富んだ成果として、学会賞を授与するにふさわしい。

◆第12回野上紘子記念アート・ドキュメンテーション推進賞

［賞の概要］
アート・ドキュメンテーション関係業務の現場において、効果的かつオリジナリティを発揮した者、あるいは機関を選出。会員に限らない。

受賞	該当なし
授賞理由	

※ 第13回 野上紘子記念アート・ドキュメンテーション学会賞・推進賞の推薦募集は2019年1月下旬の開始予定です。詳細は『アート・ドキュメンテーション通信』および学会のウェブサイトにて告知いたします。会員のみなさまには、ぜひ多くの推薦をお寄せくださいますようお願い申し上げます。